

2021年度事業計画

2021年度泉屋博古館は以下の事業を行います。

なお、東京分館は、増改築工事のため休館中です。2022年初頭にリニューアルオープン予定です。

1. 保存公開事業

(1) 展覧会

京都本館は、青銅器展、企画展について、下表の通り開催する。

1) 青銅器館

展覧会名	期間	日数
本館青銅器展 中国青銅器の時代 第1室 青銅器名品選 第2室 青銅器の種類 第3室 神秘のデザイン 第4室 青銅文化の展開 後期(9月～12月)は、下記に展示替え 第3室 中国古代の説話と文様 第4室 現代鍍金作家展(下記参照)	企画展と同じ	164
泉屋ビエンナーレ2021「現代鍍金作家展」 中国古代青銅器からインスピレーションを受けた 現代鍍金作家10名の金工作品を展示。	秋季企画展と同じ	70
開館日数計		164

2) 企画展示室

展覧会名	期間	日数
「鑄物・モダン」～花を彩る銅のうつわ～ 宋代以降の中国青銅製花器と富山大学所蔵の近代日本の銅花器コレクションを紹介します。	3/14～5/16	55
「ゆかた 浴衣 YUKATA」 ～すずしきのデザイン、いまむかし～ 現代でも人気のあるゆかた。その原点となる江戸から昭和に至るゆかたの魅力を紐解きます。	6/5～7/19	39
「木島櫻谷 四季の金屏風 と京都画壇」 近代京都画壇の重鎮木島櫻谷は、住友家からの依頼により多くの作品を残しました。櫻谷と彼を育んだ京都画壇を展覧します。	9/11～10/24	38
「伝世の茶道具」～珠玉の住友コレクション～ 大坂の商家としての住友家に焦点を当て、歴代当主の収集の歴史や茶人との交遊を辿ります。	11/6～12/12	32
開館日数計		164

(2) 収集事業

当館コレクション充実のため、当館収蔵品と関連のある作品収集を開始する。近世末から近代にかけての絵画、工芸を対象とし、購入、寄託、受贈の検討を進める。とくに住友と関わりの深い鹿子木孟郎、木島櫻谷などの作品に主眼を置く。

(3) 修復事業

以下の修復及び調査を行う。

- ・「龍図堆黄盆」、「双龍図堆黄長方盆」の修復（2年間の2年目200万円、総額305万円）
- ・「橋本雅邦 深山猛虎図」（2年間の2年目250万円、総額280万円）
- ・茶道具の仕覆、御物袋など付属品（予算50万円）
- ・茶の湯釜、風炉修復（付属品含、芦屋釜の里・予算30万円）
- ・書画工芸の収納箱補修、燻蒸（予算30万円）
- ・重要文化財「木彫阿弥陀如来立像」の修理にむけた予備調査（美術院が実施）

2. 調査研究事業

(1) 館藏品基礎調査研究

館活動の根幹となる館藏品の基本的調査研究を実施する。

テーマ	期間	予算（千円）
「茶道具の調査研究」（森下） 館蔵の茶道具について、新収品を中心に、①付属品の再調査、②購入記録並びに茶会記との照合を行う。	2020年度より継続	
「近代工芸作品の調査研究」（森下） 板谷波山「葆光彩磁珍果文花瓶」（重要文化財・分館所蔵）完成に至る過程（技法、釉薬、意匠）について調査研究を行う。出身地である茨城県内の個人所蔵作品、板谷波山記念館所蔵の陶片作品について調査を実施。	2021年度より2年間	50
「コレクション形成における近代煎茶文化の影響に関する基礎的研究」（竹嶋） 近代煎茶会で用いられた美術品の傾向を明らかにし、コレクション形成への影響を考察する。初年度は、中国書画及び花瓶の茶会記録のデータベース化を目指す。当館にない茶会記については近隣の所蔵館での調査を予定。	2020年度より3年間	30
「館蔵書画の表装裂のデータベース作成」（実方） 館蔵書画に用いられる表装裂について材質、組成、文様などの基礎情報構築を専門家の協力を得て着手。さらに伝来や装丁者など表装の成り立ちの調査も行う。	2020年度より3年間	100
「美術品収集経緯研究」（全員） 継続実施している明治大正期住友家美術品収集経緯の研究について、昭和期の購入資料の検討とデータベース化を進める。明治～昭和の全データの統合をめざす。	2015年度より6年間	

(2) 専門研究

館藏品に関連する分野において、専門的研究を行い、その成果について、学会発表、紀要などの学術雑誌や図録での公表を行う。

テーマ	期間	予算(千円)
「中国初期王朝時代の政治と文化」(小南) 中国初期王朝時代(二里頭文化から秦漢帝國の成立までの時期)の社会制度や思想文化について、主として出土文物を資料として、その特質を検討する。	2017年度より5年間	
「中国近世の文芸と民衆信仰」(小南) 中国近世の民衆文芸について、文献資料と実地調査とを通して、庶民信仰と生活倫理(孝の觀念など)のありかたを探求する。	2017年度より3年間(科研費) 2020年度より3年間(科研費継続)	2020 科研費 200
「中国古代青銅鐘の研究」(廣川) 館蔵青銅鐘の考古学的、科学的分析、復元鑄造実験を行うことにより、その製作技法の変遷を検討する。	2021年度より2年間	400
「春秋戦国時代青銅器の生産と流通に関する複合的研究」(山本) 春秋戦国時代青銅器の生産と流通の構造を、考古学的分析・理化学的分析の2方面から明らかにし、背後にある社会構造、贈与儀礼の実態解明を通じて春秋戦国時代像の再構築を目指していく。	2019年度より4年間 2019年度より科研採 択	2020 科研費 800

(3) 他研究機関との共同調査研究

館蔵品関連分野の研究を多角的に推進するため、他研究機関との共同調査を実施する。

テーマ	期間	予算(千円)
「木島櫻谷の調査研究」(実方) 櫻谷文庫所蔵資料のうち、今年度は継続中の櫻谷宛書簡類整理のまとめをめざす。また山水・風景表現について、旧蔵の日中山水画、および写生、マクリなどの資料を同文庫と共同で分析。他機関の関連作品調査もあわせて実施。	2009年度より継続	
「館蔵茶の湯釜の研究」(廣川・森下) 館蔵茶の湯釜及び風炉を芦屋釜の里へ寄託し、共同調査を実施する。京釜の形態研究および釜蓋の構造研究をすすめ、とくに後者では復元鑄造による検証を通して、釜蓋の機能性を検討する。	2020年度より2年間	200
「中国古代青銅器製作技術の研究」(山本・廣川) 当館所蔵青銅器及び中華民国國立中央研究院歴史語言研究所所蔵青銅器及び鑄型を調査対象として、商代から戦国時代にかけての青銅彝器製作技術の解明を目的とした研究(実物の考古学的調査および三次元計測と、それをもとにした鑄造実験)を、歴史語言研究所、芦屋釜の里と共同で実施する。	2020年度より5年間 (海外調査に関わる費用は科研費を充当)	400
「日本茶道文化史における中国金工品の受容と展開」(山本) 日本中近世の茶道具の中には、その淵源を中国青銅器にまで辿れるものが少なくない。これまで茶道文化史において正当な位置づけがなされていない金工品を中心に	2020年度より3年間 研究助成金申請検討中	500

実見調査等を行い、唐物受容の新たな一側面を探っていく。茶道資料館・芦屋釜の里との共同調査研究。		
「近代染織史の基礎資料研究」（森下） 館蔵の染織作品を基本資料として、近代の染織品における様式変遷ならびに技法を比較する。東京文化財研究所無形文化遺産部と共同研究を行う。2021年度は「ゆかた 浴衣 YUKATA」展にて、①技術継承に関する映像を製作、②会期中（本館）に伊勢型紙、長板中形をテーマに研究会を実施。	2020年度より3年間 (2015年より継続)。 総額 300 千円	100
「展覧会芸術研究」（椎野） 近代日本画における主題選択や表現様式を変容させた展覧会の制度に注目し、同時代資料から「展覧会芸術」という言葉の使用範囲と用法を探る。	2020年より5年間	

3. 広報普及活動

大学教育への協力事業として非常勤講師出講および博物館実習受入を行い、さらに社会教育事業の一環としてミュージアムボランティア養成研修を実施する。また展覧会や研究活動をより多くの方に理解して頂くために、関連書籍の刊行および各種講座、講演会、シンポジウム、ワークショップなどを開催する。

内容
(1) リ・ブランディング 分館リニューアルを機会に、第三者による客観的な分析を行い、泉屋博古館の存在意義や価値の再認識を行う。また分析を元に、シンボルマークやロゴ等のビジュアル・アイデンティティ（V I）を構築する。予算 1423 万円。
(2) 分館リニューアルに向けた広報活動 交通広告、記者発表、リリース配信サイト等を活用して、リニューアルを事前告知する。
(3) 紀要・図録の発行 ①「泉屋博古館紀要」第 37 巻 500 部（2021 年 12 月） ②「鋳物・モダン」図録 2,500 部（2021 年 3 月） ③「泉屋ビエンナーレ 2021」図録 1,500 部（2021 年 9 月） ④「住友コレクションの茶道具」図録 1,000 部（2021 年 11 月）
(4) 講演会・シンポジウムの開催 【本館】外部講師による講演会やシンポジウム、ゲストギャラリートークを開催する。
(5) イベントの開催 【本館】「古印鋳造」「ゆかたでお茶会」ほか、各種ワークショップを計画。
(6) 近隣美術館等との連携 【本館】黒川古文化研究所との青銅器相互寄託。
(7) 休館中の文化活動 【分館】休館中ではあるが「古印鋳造」「ビジネスパーソン向け美術講座」等の文化活動を行う。
(8) SNS、HP を活用した広報活動 FaceBook、Twitter の活用により、イベント案内、駐車場情報等をスピーディーに告知している。また分館リニューアルの合わせ、HP の全面リニューアルを機会検討中である。

(9) 青銅器解説ボランティアの新規養成 【本館】ボランティア解説員の高齢化による退職者増加に対応するため、10名程度の解説員の新規募集を行いたい。なお、これに伴い養成研修を10回程度開催する。
(10) 学芸員による列品解説を本館にて展覧会毎に3~4回実施する。
(11) 大学への出講 【分館】野地（成城大学、通期）

4. 開館60周年記念事業

(1) 「泉屋ビエンナーレ2021」

中国青銅器を含む金工作品の啓蒙と、現代鋳金作家への活動支援および若手作家の育成を目的として、2021年より隔年で開催する。

現代鋳金作家に古代中国青銅器からインスピレーションを受けた作品の制作を依頼し、泉屋博古館本館にて公開。（三船温尚富山大学教授監修）。第1回として、事業計画案「(1)保存公開事業」の通り、2021年9月11日（土）～12月12日（日）に開催する。

(2) 『泉屋博古館2011-2020』の刊行

財団を設立した昭和35年（1960）から平成22年（2010）までの活動をまとめた『泉屋博古館50年史』に続き、その後10年間の活動史を刊行する（2021年3月予定）。

5. 施設への対応

項目	内容	予算（千円）
分館増改築工事	2020年3月30日に着工した、分館の機能拡張のための工事を継続して行う。建物は2021年5月末竣工予定。展示ケースは別途工事により、建物竣工後に着工～2021年秋には工事完了予定。	1,182,000 (2019～2021)
本館2号館ロビー空調工事	2号館竣工（1986年）以来使用してきたが、今回使用している冷媒が生産終了となった。故障時の対応が困難となるため、空調装置を更新する。	5,400

以上